



政党支持と「無党派」

— 最近の選挙を材料に—



選挙研究の4つのアプローチ

- 合理選択論的アプローチ(5週)
 - ゲーム論
 - 空間理論
 - 選挙制度
- 心理学的アプローチ(2週)
 - 政党支持/無党派
 - マスメディア
- 社会学的アプローチ(2週)
 - 社会的圧力・動員
 - 政治的社会化・政治意識
- 文化論的アプローチ(2週)
 - 政治文化論
 - 脱物質主義論・人間関係資本論



2005年総選挙

- 興味深い選挙
 - 選挙制度の特色が明確に現れた(ポイント1)
 - 民意の変化に敏感な小選挙区制
 - 小政党の議席獲得を可能とする比例代表
 - 「郵政」争点選挙が実現したかのように見えた(ポイント2)
 - 合理選択論的アプローチが前提とする選挙であったのか
 - 政党支持態度の影響を考える好材料(ポイント3)
 - 「無党派層」の影響が大きかった
- そこで、2005年選挙の結果を復習



選挙結果:増減

	自民	公明	その他	日本	国民	社民	共産	民主
05	296	31	19	1	4	7	9	113
選挙前	212	34	33	3	4	5	9	177
	+84	-3	-14	-2	0	+2	0	-64

- 民主(と自民造反組) → 自民へ
- その他は変わらず
- 結果的に「政権選択」選挙



選挙結果:並立制の特徴

	自民	公明	その他	日本	国民	社民	共産	民主
2003年								
小選挙区	168	9	-	-	-	1	0	105
比例区	69	25	-	-	-	5	9	72
								+49
2005年								
小選挙区	217	8	18	0	2	1	0	52
比例区	77	23	1	1	2	6	9	61
								-53

- 比例区に依存の政党 — 安定的
- 大きな政党も比例は比較的安定的
- 民意の変化に敏感な「小選挙区制」

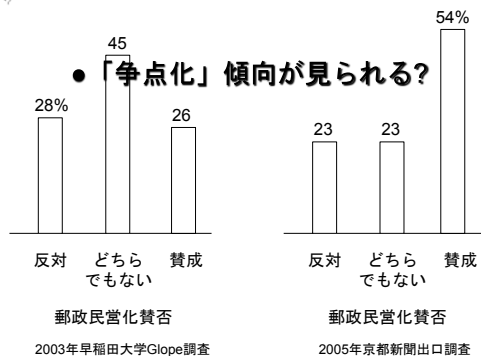


2005年総選挙が興味深い点:ポイント2

- 「『郵政民営化』」が最大の争点である」と小泉氏は繰り返したが・・・
- ほんとうに争点を吟味しての投票だったのか



争点選挙 vs 劇場選挙



争点選挙 vs 劇場選挙

- 「郵政」争点を吟味したというより、小泉氏の「改革路線」へ支持
- そもそも、争点を吟味する環境があったか
 - 1.小泉氏の選挙戦略
 - 民主党を論争の相手にしなかった
 - 2.マスメディアの責任
 - ○×式の回答を迫るスタイル
 - 3.「マニフェスト」が手に入らない
- マニフェスト選挙を後退させた小泉劇場



政党帰属意識

今日の3つ目のポイント

- その起源
 - ミシガン大学の投票モデル(The American Voter 1960)
 - 政党帰属意識論 (Party Identification, PID)



政党帰属意識

- PIDとは
 - 有権者のほとんどがもつ、政党に対する帰属意識
- Q. Generally speaking, do you usually think of yourself as a Republican, a Democrat, an Independent, or what?
 SQ1. (党派性を答えた場合) Would you call yourself a strong Republican/Democrat or a not very strong (Republican/Democrat)?



政党帰属意識

- PIDとは
 - 家庭内の社会化により形成される
- 「家庭内社会化」家庭内で次の世代に受け継がれる傾向



政党帰属意識

- PIDとは
 - 帰属意識は安定的で、生涯、変わることはあまりない
- 帰属意識を感じない政党に時には投票することがあるが、基本的に、帰属意識そのものは変わらない。



日本への応用

- 投票行動の説明に、このミシガン・モデルの応用が試みられた
 - cf. 三宅 1989 『投票行動』
 - cf. 三宅・西澤 1992 「日本の投票行動モデルにおける政党評価要因」『日本選挙学会年報選挙研究』第7号。
- 「政党支持」要因がきわめて強い



支持政党と投票政党(明推協データ) 2003年総選挙 比例区

投票政党	自民	民主	公明	共産	自由	計 (N)
支持政党						
自民	83	11	3	1	1	100% (618)
民主	2	91	2	3	2	100 (261)
公明	4	3	94	0	0	100 (75)
共産	2	2	0	96	0	100 (66)
自由	2	3	0	3	90	100 (67)
無党派	23	40	5	10	9	100 (334)

「歩留まり率」



増える無党派

明るい選挙推進協会 選挙後世論調査

支持政党と支持無し(無党派)%	
1972年総選挙	2000年総選挙
自民 42	自民 35
社会 21	社民 4
公明 3	公明 4
民社 3	民主 14
共産 5	共産 4
保守系 2	自由 3
革新系 4	保守 0
他 0	他 0
支持無し 20	支持無し 35
計(N) 2275	2106



「無党派」とは

- 「支持あり」の反対
- 支持政党を答えない人
 - 政党名(ラベル/ブランド)で投票を決めない人
 - 政策評価・候補者評価をより重点をおく人(?)
 - マスメディアの論調によっては、人気投票的な投票もありえる
- ポイント2で見たように、2005年選挙は必ずしも「争点選挙」とはいえなかった。